

新聞雜誌

明治壬申三月

第卅四號



定價二匁

特	別
18	
787	
34	





緒言

凡天下ノ物事日ニ新ナルニ我未タ見聞セザルヲ知テ吾知識ヲ廣ムルヨリ  
 樂シキハナシ見聞ノ狭キ田舎人ハ心頑ニ知暗シテ疑恠ムク多ク竟ニ我ヲ  
 是トシ人ヲ非トスルノ過アリ今日カル辱キ 御代ニ逢ヒテモ遠境ノ人ハ  
 太政ヲサマヲモ知ラデ却テ疑非ル者モアルベシ斯テハ逢カタキ世ニ生レシカヒ  
 ナシ今 官許ヲ受テ新聞紙局ヲ開キ 太政ヲ始メ諸府縣ノ變革又ハ  
 里巷ノ瑣事外國ノ異聞マデ見聞ニ随ヒ刊行スルハ我 日本國中ノ  
 人々ト新知ヲ開クノ樂ヲ同シ頑ナル心僻メル事ヲ棄ントテナリ願ハ此冊子  
 ヲ讀玉フ人々ヲ聞テニヲ推シ近ヲ知テ遠ヲ察シ天地間ニ我意外ナル驚  
 ベク喜ベキ事多ク唯一隅耳ヲ見ルハ田舎人タルヲ免レズ夏虫氷ヲ疑ノ笑ア  
 リト知玉ヘサテコソ復古ノ 大御代ニ生レシ人タルニ負カジト云ベケレ



新聞雜誌第廿四號

明治五年壬申

○二月六日震災ニ付濱田縣廳ヨリ届書ニ云  
 過日不取敢御届申候當縣内稀代ノ震災ニテ濱田町家  
 屋過半類破焼失死去百五人許傷者二百四拾七人許猶  
 在々ノ儀モ輕重ハ有レ之候得共粗一般ノ儀ニテ人民ノ  
 死傷且山崩レ地裂ケ堤防井手道橋等ノ破損夥シク甚  
 シキニ至テハ一村過半沈没或ハ田方用水ノ源ヲ塞キ  
 差向キ耕作不相成場所モ数ヶ所有レ之此節官負差出シ  
 取調中ニ御座候右ノ次第ニ付死者ニハ埋葬料差遣シ

新聞雜誌第廿四號



傷者ハ假ニ病院ヲ取建治療ヲ施シ其他凶災ニ罹リ候  
窮民共ニハ焚出救米等相與へ申候尚今以晝夜數十回  
震動致シ候得共先漸々平穩ノ方ニ御坐候云々

○嚮ニ記載セル元生野縣管下騷擾ノ兇徒此節豊岡縣  
ニ於テ叢ニ取調ニ相成正月廿五日斬罪七人絞罪三人  
裁断アリ猶殘徒多人數拘囚ノ内死刑ノ者モ之アル由  
右騷擾ハ元姫路縣管下ニ起リ同管下各所放火數十家  
ヲ燒キ其慘毒目モ當テラレヌ有様ナルニ未タ何ノ處  
置アルヲ聞ズ然ルニ今般歸磨縣ヲ置カレ令參事入縣  
ニ相成リ元縣ノ處置汙漫ナルヲ憤リ追々叢シキ處分

アルベキトノ由遠カラズ奸民膽ヲ寒シ 朝威相輝  
クベシトノ導ナリト云

○備中玉島南町秀屋作兵衛ト云ル者從來小間物賣買  
ヲ以テ渡世トセシカ去ル文久三亥年以來廢業シ尾州  
日々野大助ノ門ニ入り名ヲ一元徳ト改メ獨立ノ思ヲ  
起シ身滌ト唱ヘ日夜水行ヲナシ不審ノ歌ヲ讀ミ天地  
ノ神ト結ンデ笑ヘ愚民ヲ誘導セリ之ニ依リ廢業シ一家  
ヲ絶タントスル者玉島邊凡廿人ニ及ベリトゾ又東京  
近在ニテモ去十二月頃ヨリノ浮風ニテ男女數十人團  
坐ヲナシ中ニ一人ヲ置キ一齊ニ三絃ヲ彈キ太鼓ヲ撻



千左ノ歌ヲ歌ヒマノカミサマハヤマハハ家ハハ船ハ持ハノ大明神ヲカ  
囉ハシ立レハ彼一人忍テ逆上シテ種々ノヨ嚙ト語ヲ癸シ俗  
ニ云狐狸ニ付レタルガ如クナルヲ以テ興キトナセリ其  
他宗忠神道唯一神道ア田タ東トナド唱ヘ種々ノカ詭道ヲ弘  
メ愚民ヲセ煽ア惑スセシ者多クハ皆此類ナリ文明ノ世且シ  
ク御禁令有之タキナリ

○西京ニ於テ三月十日ヨリ五十日間勅植金石類其  
他中外令古ノ品物博覽ノ大會アリテ外國人ノ入京ニ縱  
觀ヲ許マリ滯京中洛東智恩院ヲ旅館トナシ又保護ノ  
為メ巡邏ノ兵ヲ置キ諸事懇切ニ取扱ヒ其他諸規則手

續キ等嚴重ニ相定メ頗スル盛大ノ舉ナル由横濱并東京  
ヨリモ数十名ノ洋人不日癸途上京スト云

○府下淺草傳法院ニ於テ企タテシ博覽會三月十一日ヨ  
リ百日ノ間開場シ一人金一朱ヲ請ケ縦覽ヲ許セル由  
○名古屋縣ニテ取建シ教育院ノ貧民總計四百余人ニ  
至リシカ追々活計ノ方向ヲ得テ出院シ當時總力ニ百  
人ヲ下レリト云

○名古屋縣友人ノ來信ニ云當縣元非人權九郎圓四郎  
元穢多小市スヘ女ノ四人近頃高法用達ニ列セリ小市  
ハ手代数百人ヲ率ヒ屠牛場ノ總轄ヲナシ權九郎ハ士



族ト縁組ヲナシ近日本町通へ新店ヲ開カント企タリ  
 或府ハ元穢多ニ家ヲ借スマジトテ明家ナシノ張札ヲ  
 出シ或縣ノ一揆ハ之ヲ愚ンテ其書面ヲ火中ニ投シタ  
 リト文化ノ進不進實ニ同日ノ論ニ非ザルナリ云々  
 ○太政官出仕廣瀬進一キヤウコウ教ツヒエ費ヲ華族ニ募ル議ニ云  
 臣嘗テ之ヲ思フニ 皇威ヲ恢張スルハ郡縣ノ制ヲ建  
 ルニ在リ國勢ヲ宏強ニスルハ開拓ノ業ヲ興スニ在リ  
 ト今ヤ郡縣ノ制已ニ定リ開拓ノ業モ亦舉ル天下ノ事  
 又可言者ナシ獨リ人才教育ノ方法猶未タ全備セザル  
 ニ似タリ夫レ人才ハ國家盛衰ノ所關其重キ不待言ヲ政府

固ヨリ良圖偉策在ラセラルベシ然レモ臣未タ窺知ル  
 能ハス敢テ鄙見ヲ陳シ尊嚴ヲ瀆冒ス夫レ育才ノ法政  
 府獨リ之ニ任ス可ラス獨リ下民ニ寄ス可ラス下民ニ  
 寄レハ其規模一定ナラズ政府獨リ之ニ任スレバ其施  
 為キヨリコウ決キキ洽コウナラズ故ニ之ヲ下民ニ寄セテ而メ政府之ヲ統  
 理スルニ如クハナシ之ヲ上下ヲ一ニシ衆カヲ合スト  
 謂フ方今教ツヒエ費日ニ加リ月ニ盛ン華族モ亦社ヲ結ブモ  
 ノアリ蓋シ 聖化ノ所致人心趨嚮ノ機已ニ見ユ獨惜  
 ム其規則殊異ニシテ其教導精粗アルヲ是獨リ下ニ寄ス  
 ルノ故ノミ伏願クハ 朝廷宜シク速ニ其趨嚮ノ機ニ



投シ衆カヲ合一シ以テ其規模ヲ一定スベシ然後人材  
 生育復遺憾ナカルベシ然リト雖モ凡事ヲ立ル資財ヲ  
 以テ本トス其本ヲ計ラズシテ其施為ヲ論ス亦唯空論  
 徒成ス一有ンヤ故ニ今其資本ヲ論シ其方法ヲ左ニ陳  
 ス 先般元諸侯華族へ渡洋勉學スベキ 勅諭アリ是  
 レ宇内ノ形勢ヲ歴觀衆庶ニ率先シ以テ 皇國ノ開化  
 フ助ク其業亦偉ナラズヤ雖然人ノ才ヲ成ス唯志ヲ立  
 ルノ確ク學ヲ好ムノ篤ク刻苦勉勵不巳モノニ在リ而  
 有志ノ徒大率貧困窮厄徃々資財ノ為ニ一蹶スル者古  
 今尠トセズ若之ヲシテ其資財ヲ扶助シ小ハ以テ圖書

器械ノ欲ヲ充シメ大ハ以テ航海歷遊ノ望ヲ遂シメハ  
 其偉器連材駸々輩出目ヲ拭テ待ベキ也若シ徒ニ財ア  
 ルヲ以テ漫ニ海外ニ遊ブ其費ス所ノ財幾萬ニシテ其  
 材ヲ成ス果シテ幾許ソヤ其利害得失智者ヲ待而後ニ  
 知ラザルナリ故ニ臣區々ノ心此無用ノ費ヲ移シ彼ノ  
 有為ノ人才ヲ生育セントス雖然凡ソ人其心ニ服シ其  
 事ヲ悅ブニ非ンハ誰カ其財ヲ出メ其舉ヲ助ン願クハ  
 朝廷一ノ制諭ヲ出メ明ニ其利害得失ヲ辨シ二三有志  
 ノ華族ヲメ之ヲ率先セシメハ庶幾クハ以テ衆ヲ鼓舞  
 スベシ抑臣亦華族ノ洋行ヲ目シテ之ヲ無益ト詔ニ非



スニ百八拾五名ノ華族ヲシテ盡ク洋行セシノンテ固  
 ヨリ希望スル所ナリ然レ其事務容易ナラズ其家ノ貧  
 富其禄ノ多寡アリト雖氏大抵平均シテ一人一年ノ所  
 費千五百金留學三年往還ノ路纏ヲ概シ一家五千金而  
 ノ其留學ノ遲速其年齒ニ隨テ不同ト雖氏十年ノ間ニ  
 盡ク洋行セシムルハ其費用概ノ百四拾萬金ニ下ラ  
 ス而其ヲノ盡ク才ヲ成シ業ヲ遂シムルハ僅々二百八  
 拾許人ニ過キバ況レ二百八拾許名ノ華族盡ク才アラ  
 シヤ今此華族ヲノ洋行二年ノ費用ヲ出サシノ以テ育  
 才ノ費ニ充ントス其方法華族ノ食禄現石九拾余萬石

一萬石ニ金一萬金三年ニ分配シテ之ヲ出シムル其  
 金合ノ九拾萬金此九拾萬金ヲ高社ニ借貸セハ其息毎  
 歲九萬金ヲ得ル此九萬金ノ資本ヲ以テ教養一年ノ費  
 用ニ充ツ大抵都下六大區每區ニ教養ヲ開キ一費一年  
 ノ所費九ツ一萬金以テ各國ノ良教師ヲ雇ヒ加ルニ精  
 勉ノ助教ヲ置キ華族及ヒ平民ノ子弟ニ至ルマテ皆就  
 テ學フヲ得セシメ所謂貧困窮厄ノ入才ヲ扶持シテ其  
 志業ヲ遂ケシメハ貧富貴賤ニ論ナク人才輩出其幾千  
 人ナルヲ知ラス而メ每歲之ヲ公撰メ文部省ニ貢シ文  
 部省之ヲ檢査シテ年々三十名ツ、費用千金ヲ給メ以



テ海外遊學者年十ラシムルハ十餘年ノ後其成立者  
 方ニ三百人ナラントス是所費ノ財ハ華族三分ノ二ニ  
 メ而ノ其資本依然トシテ不朽ニ存シ年々九萬金ノ子  
 利ヲ生シ以テ永世ヲ益ス噫如是則華族ノ國家ニ裨益  
 アル却テ自己財ヲ費スモノト豈日ヲ同シテ語ル可シ  
 ヤ抑華族タル者何ソ此際ニ當テ相率テ奮勵以テ此偉  
 業ヲ興ガ、ル唯華族ノ為ニ惜ム、ミナラズ 朝廷  
 ノ為メニ深ク之ヲ惜ム是臣ノ忌諱ヲ憚ラス敢テ鄙衷  
 ヲ吐露スル所以也臣誠恐誠惶味死謹言  
 ○米國留學生足羽縣日下部太郎病死トシ處辨務使并

- 彼國師友等取扱ヲ以テ左表ノ如ク厚キ埋葬ヲ受タリ  
 是偏ニ 皇國ノ餘澤ト米人ノ懇親ニ依ルナラベシ  
 一米國紙幣一百四十四トル五拾錢 棺  
 一同一拾〇トル 葬式ニ付寺入用  
 一同八トル 同断ニ付花入用  
 一同一百二十五トル 墓地買上代  
 一同一トル 墓地受取書町役所帳へ書込ニ付赤話料  
 一同一百八十〇トル七十五錢 石碑并ニ墓地<sup>ダキヨカ</sup>形等  
 一同三十〇トル 墓地<sup>ウキ</sup>生植廻リ芝代  
 一同一百〇〇トル 葬式ニ付世話ニ成シ旅宿へ遣<sup>ツカ</sup>ス



一同戴百〇〇トル 墓地生植枯ル、ニ付石墻廻シ代  
合九口米國紙幣七百九十九トル二十五錢

○或洋人ノ話ニ日本ニテハ近頃裸躰ニテ街上ヲ往来  
スルヲ禁シ又無蓋ノ糞桶ヲ搬運スルヲ制セシメナト  
從來穢ラハシキ風習モ追々改正ニ趣キシカ未タ一弊  
風ノ除カサルアリ何頃ヨリ始マリシニヤ茶屋遊女屋  
船宿待合其外客商賣ノ家ニハ金精明神ト称ヘ大ナル  
陰莖ヲ神棚ニ上ケ燈明ヲ點シ榭木ナトヲ具シテ之ヲ  
祭レリ無礼ト云ヒ失体ト云ヒ實ニ無恥ノ風正視スル  
ニ堪サルナリ又之ニ及シテ街道ニテ兩便所衆觀場ナ

トニハ必ス 天照皇太神ノ木札ヲ掛ク冠履倒置ノノ  
神ヲ瀆シ俗ヲ乱ル亦甚ンカラスヤ是等ノ汚習ハ萬國  
中絶テ之ナキヲニテマシテ當府下ハ 鞆鞍ノ下ナレ  
ハ嚴シク禁令アリタキヲナリ云々

○二月廿六日當府下大火アリタリ此日三字頃和田倉  
御門内元會津邸ヨリ出火折節風烈シク諸町へ飛火イ  
タシ大名衛兵部省長屋岡山縣高知縣ノ邸ヲ燒拂ヒ夫  
ヨリ京橋西紺屋町先ニ銀坐二丁目大通ハ銀坐一丁目  
ヨリ尾張町二丁目迄御堀端通ハ數寄屋河岸近三十間  
堀ハ三丁目迄新島原南側不殘小挽町一丁目ヨリ五丁



目迄西本願寺中不殘築地南飯田町ヨリ「ホテル」迄焼失  
 ス因テ府廳ヨリ救助トシテ一人金一分宛死傷ノ者全  
 二両二分宛下サレタル由焼失町数ノ数共ニ死傷負數左ノ  
 如シ 町數四拾一町 戸數四千八百七拾四戸 人負  
 一萬九千八百七十二人 死者八人 傷者六十人 救  
 金總計三千八百三十五兩一分  
 ○第三十號ニ載タル驛頭前島氏ノ奏議ハ彼ニ依テ  
 其律相撰可申云々ニ止ル者客幸ニ記者ノ誤リヲ許シ  
 タマハン「」ヲ冀フナリ

新聞雜誌第卅四號

撰者伏テ四方ノ君子ニ告ケ奉ル本局既ニ 官許ヲ得テ新聞紙ヲ刊行ス  
 其旨意ハ前ニ述ル所ノ如シ但奇事異聞耳目ノ及バサル處多シ頗久同好ノ人  
 何事ニヨラス其處々ノ新聞ヲ書纂ノ本局及ビ下ニ列スル賣弘處ニ寄セ玉  
 ハ次第ニ刊行發兌スベシ且寄玉テ書付ニ其住處姓名ヲ必ス載セ玉フ  
 可シ無名ノ書ハ敢テ采入セス無報ノ浮言造説アルヲ恐ルハナリ

一切賣買ノ弘メ等望ニヨツテ出版スル事件

- 一 田地山林家屋舟車等賣買貸借
- 一 新發明巧器及書籍等賣買
- 一 產物器具食品藥劑等一切賣買
- 一 金銀其外ノ貸借等
- 一 諸船ノ入湊出帆積荷ノ物件等
- 一 失物尋物等
- 一 店ヒラキ新規賣出等ノ引札
- 一 觀セテ集會等ノ引札
- 右等河レモ一行セ三字一度出板價ニ宛宛同事件ニ度分ハ五
- 三度分ハ八分ニテ御引受イタシ候



新聞雜誌定價一號銀二匁 每週出版

當時發兌號ヨリ先キ十冊分引受候向ハ定價ヨリ一割半引

同二十冊分ハ二割引 同四十冊分ハ三割引

右定ノ通約定前金受取候上ハ每號發兌順序ヲ逐ニ本局ヨリ御取  
候又遠方取次賣弘方望メノハ本局へ御引合上御相談可申候

本局

東京西園橋若松町

新 堂

東京西園橋若松町

和泉屋金右衛門

東京芝三島町

和泉屋市兵衛

大塚彌橋通

河内屋吉兵衛

東京東洲橋本町

河内屋吉兵衛

東京日本橋區本町

須原屋茂兵衛

大塚彌橋通

河内屋吉兵衛

大塚心齋橋通

河内屋吉兵衛

東京東洲橋本町

和泉屋市兵衛

賣弘所

